令和７年度７月期古賀市社会教育委員の会議　議事録

【 会議名称 】　令和７年度７月期古賀市社会教育委員の会議

【　日　時　】　令和７年７月２５日（金）　１８時３０分～１９時３０分

【　場　所　】　リーパスプラザこが交流館　１０３洋室

【　内　容　】　・今年度の取組検討について

【 出席委員 】　園議長、橋爪委員、安部委員、石川委員、梅谷委員、
大賀委員、倉掛委員、坂﨑委員、藤田委員（以上委員９名）

【 欠席委員 】　江口委員

【 事 務 局 】　生涯学習推進課 課長、職員２名

【 傍聴者数 】　０名

【配布資料】
・レジュメ
・資料１　６月期社会教育委員の会議より

１．開会

２．協議事項

(1) 今年度の取組検討について
(園議長)
　未来会議として、前回は、関心があるテーマを選んでいただいた。
　第３次古賀市生涯学習基本計画の中で社会教育委員に求められているのは、つながりのところで「つながり深まる生涯学習・社会教育」として、「必要なマッチングを行ったり、集まる機会をつくったりすることで、団体や活動を相互に知り、つながりを深める促進をしていきます」とあるが、これが生涯学習笑顔のつどいに関わってくる内容となる。今後の予定としては、８月、９月に皆さんの関心ごとの中からテーマを決定し、１０月には発表者の３団体を決める。参加いただく方が関心を持てるテーマにしたい。笑顔のつどいの中で、毎月の会議内容の概要を伝えたほうがいいと思う。形式としては、各団体１０分ずつ発表いただき、グループディスカッションを行う方向で、事務局と話しており、今後皆さんの意見を聞いていきたいと思う。今日は、梅谷委員、大賀委員、藤田委員に発表をお願いします。

(梅谷委員)
　社会教育委員の立場で、私が何をするかが１番大事。自分自身がやっていきたいことが、自分の地域の歩いて行ける身近なところで活動が行われるようどう支援していくか。
地域の人のつながりの中に地域で自発的に支援につなげることで、より介護予防や喜びにつながり、高齢者がより元気になる。地域サポートセンター「ゆい」では、自分自身の学びだけでなく、地域支援につなげるために古賀市は取り組みを続けてきた。高齢者だけでなく、やはりその人のやりたい気持ちが１番大事で、マッチングや環境要因が整わない限りなかなか見いだせない。それを薬王寺の中で展開していくには、リーダーに近いところで企画側に回らないと社会を変えていけないという気持ちで取り組んできた。地域に学びがないと地域は変わらない。地域の中に地域大学のようなことができないか。学びをマッチングさせることで仲間が集まり、サークル活動が進んでいく。最期に弱っても仲間がいると思ってもらえるような地域づくりを少しずつ始めている。

(大賀委員)
花見地区にあった木曜館がとてもよかった。地域の方が年齢を問わず集えるスペースを提供し

ていた。接待する側も参加者も毎月顔を合わせるのを楽しみにしていた。10 年目で節目を迎えたが、残念ながら終了してしまった。次を立ち上げる担い手やスタッフが見つからず、継続が難しかった。工夫次第で楽しいコミュニティスペースができるのではないか。歩いて行ける公民館にあるのがいいと思う。高齢者向けでリハビリ会という活動があり、とても活発で、たくさんの高齢者の方が来られていた。たくさんの方が公民館を必要としているので何か別の形でできたらいいと思う。見地区は子ども会や公民館の子供向けイベントも残っているので、できれば世代をつなげる活動ができれば楽しいと思う。

（藤田委員）
地域の新しい住民と古い住民との関係に関心がある。社会福祉協議会では、毎年会員への依頼を区長にしていて、組長に訪問していただいているが、どんどん会員が減っている。どうして会費を払わないといけないのかという意見もあり、崩壊している組や依頼もできないところもある。福祉会の活動の中でもバスハイクは人気があり、活発である。外出や楽しいことには意欲的だが、サロン活動への参加者は少ない。新しく引っ越してきた方は地域離れをしていると実感している。何か世代を問わない活動をしているところがあれば教えていただきたい。

（園議長）
梅谷委員は地域の高齢者に焦点化した活動をしていこうと考えてありますか。

（梅谷委員）
私自身、いろんな分野で活動してきたたが、人は地域の中で自分自身に興味があることしかしない。いかに身近なところにそういった活動があるか。今は選択肢があまりにもなさすぎる。福祉会ではなく、社会教育という土台の中で地域活動や学びが充実し、いろんな分野があり、自分で選択していく。環境が整えば、学びがずっと続いていく。年齢ではなく、社会教育の充実が最もすべての事業において大切だと思っている。より身近なところで社会教育が充実するしくみを作ることに関心がある。

（園議長）
大賀委員の木曜館も年齢を問わず、活動されていましたか。

（大賀委員）
木曜日の午前中に、子育て中の母親も参加されていて、未就園児と高齢者の交流があった。七夕会やクリスマス会も行われていた。

（坂﨑委員）
木曜館はどちらの公民館になるか。

（大賀委員）
花見東２区になる。

（梅谷委員）
花見東２区は様々な活動が向上的にされていて、自分たちで選択できる。他の地域の方が来てもいい。古賀市の中で最も活動が活発なのではないかと思う。

（倉掛委員）
藤田委員の意見を聞いて、去年まで区長していたので、区を抜ける人が多いと実感した。新しい人を歓迎するムードがないところもある。区に入るメリットを聞いてくる方もいるが、地域でつながるメリットを伝えることがなかなか難しい。

（梅谷委員）
青柳は高齢者の孤独死も出ていて、孤立してきている。自分たちが高齢化したときに地域でつながる大切さに気付く。

（大賀委員）
花見東２区は社協の集金の際に、なぜ一律でないといけないのか。お金を出したくない意見はなぜ聞かないかとう意見を出た。

（坂﨑委員）
過去に青柳で「町川原の未来を考える会」を作り、若い人の意見を聞いたが、区長が毎年変わるのでなかなか地域が変わらない。

（園議長）
去年の笑顔のつどいの中では、どんな好事例が出ていたか。

（橋爪委員）
去年、団体と打ち合わせをした中で、区長さんから新しい住民との関係に苦労していた話を聞いた。花鶴丘３丁目区は地域の活動にいろんな世代を巻き込んでいっていた。久保西は区のしくみを挙手制に変えて、方針から変えていった。
昔は反強制的の中でできるつながりの良さもあったが、今は地域の主体性をどうのばしていくかが難しい。そこを支援していくしくみが大切だと思う。

（梅谷委員）
古賀市生涯学習基本計画にあるように自発、意欲、つながり、支援の中でどう土台を作るか。

学ばないと人は意識が変わらない、社会教育として、地域に学びがどれだけあるかが難しい。

（石川委員）
私の地区では、ふみぞのカフェといって月に１回高齢者の集いの場を作っている。何かをやるときに賛同する仲間がいないと進んでいかない。どこの地域も高齢化で公民館を利用して集まれる場が大切だと思う。

（安部委員）
神社に行くとお祭りが成立していないという話を聞き、つまり、地域が成立していないということだと思う。仕事が中心であれば、地域に関わることはできない状況もあるが、地域のイベント等で顔を合わせることでコミュニケーションが取れるため、大切なことだと思う。全国で実践例を収集して古賀市に当てはめてみるのはどうかと思う。

（園委員）
それでは、次回の発表者は、橋爪委員、安部委員、倉掛委員にお願いします。

３．その他

（１）各委員から
（坂﨑委員）
青小サマースクールについて案内

（石川委員）
夏休み子ども体験教室について案内

（２）事務局から
次回開催日程
８月　　２２　日（金）　１８：３０　　～　　会場：　１０３洋室

４．閉会